

<全体シンポジウム >

戦後史の中の安保体制 - 日米中のトライアングル

中村政則

1. 戦後史とは 日本国憲法体制と日米安保体制との相克・矛盾のシステム

a. 日本国憲法

b. 吉田茂とサンフランシスコ講和、旧安保条約と新安保条約

- ・ 米軍は日本を守る義務はない、条約期限なし、内乱条項
- ・ 1960年、岸信介による安保改定
- ・ 警職法改正反対闘争
- ・ 安保と私、5.19 強行採決、「岸を倒せ！ 安保反対！」の声が渦巻く
請願権行使による国会包囲のデモの波、革新政党主導の労組、全学連のデモ、ベ平連
(小田 実ら市民運動) や市民による大衆運動
- ・ 安保は反米運動であったか
むしろ反岸(東条内閣の商工大臣、旧満洲官僚、安保条約締結)の意識のほうが強かった

2. アメリカ人の安保観

- ・ ライシャワー(駐日アメリカ大使)再考
- ・ LIFE, June, 20, 1960 [安保特集]
- ・ パッカード(全学連学生に取材して書いている)、「日本の学生たちはアメリカを嫌っているわけでない。再軍備を進める岸が嫌いだった」
- ・ 安保はソ連、中国を仮想敵としていた。
- ・ 沖縄と安保
サンフランシスコ講和条約第3条で沖縄を日本本土から切り離し、米軍基地を置いた
- ・ 治外法権
沖縄は安保に入っていない。60年安保闘争のとき、沖縄はデモ参加者の視野になかった。というより、米海兵隊が沖縄の基地から出撃していた報道に接して、私などは「そうだったのか」と沖縄と安保の関連に気付いた程度
- ・ 72年沖縄返還

おわりに

- ・ 外交権と軍事権に注目(石母田によると、古代ローマ帝国が最初に奪ったのは、外交権と軍事権)